

上坂部小学校のルーツは…明治6年創立「板田小学」

明治4年(1871年)に文部省が創設され、翌5年に学制が交付されると、兵庫県は各区戸長に小学校設立を命じました。これに基づいて、明治6年各村に小学校が作られました。上坂部村には「板田小学」が設立され、これが現在の上坂部小学校のルーツになっています。その頃は、校舎はなく民家や寺を借用したのもで、教員も村の学識者がその任務に当たっていました。例えば、「田能小学」は民家4軒の借用となっています。開設や維持には、民費が充てられ授業料を徴収していました。学制は下等4年(6歳~9歳)、上等(10歳~13歳)の8年制でした。園田地区で校舎が初めて建てられたのは、明治10年の御園小学校が初めてで、食満村役場の隣でした。教育費は村民税の大半を占めましたが、園田地区では授業料を徴収した記録がなく、校舎建築を含めると村費ではとても賄いきれるものではありませんでした。おそらく地域の有力者からの相当な寄付があったと推定されます。当時は農業などの家業を手伝うことが普通とされていたため、就学率は低迷しました。このため、小中島分校は閉鎖されました。

明治12年学制廃止に伴って、教育令が公布され就学年限が最低4年に改められました。明治13年、就学が義務化されましたが、翌年の緊縮財政によって町村の財務状態は瀕し、教師への年棒が不渡りになるような様でした。就学率も大幅に低下して、上坂部・下坂部を校区とする小墾田小学校は、明治10年に男子1名、明治14年ようやく女子が入学者がある状況でした。義務教育の概念に反する受益者負担と貧困者のための簡易科(簡易小学校)の創設も評判が悪く明治23年に廃止となりました。

日清戦争後、清国から得た賠償金で国家補助がつき、授業料が全廃されることで、ようやく就学率の大幅な向上に至りました。系統図を見るにあたっては、紆余曲折や試行錯誤で様々な分合を繰り返し、現在に至ることがわかります、しかるに、分合は先人の苦勞の足跡でもあるのです。

上坂部小学校 分合系統図

